



桑の緑

小坂小学校 学校便り

令和3年9月22日
文責：校長 江上 知男

子どもの問題行動こそ大切にしたい！

「学校って何のために？」ということをよく考えます。私は、常々「大人になった時に、自分で生活できる力（社会で飯食う力）を付けるため」と言っています。どうしても「自立」「自律」が必要です。

そのためには、「問題を起こさせない平穏無事な環境」ではなく、「問題が起きたときにみんなで考えて解決する環境」を目指す

必要があります。それは、実際の大人の社会では、毎日起こる様々なことにきちんと対処することが求められるからです。また、誰かと協力して解決することが求められるからです。

2学期になって、学校で2つの問題行動が起きました。1つ目は「トイレの落書き」です。昨年度から何度も起こり、集会や各学級での話し合いを重ねましたが、また起こってしまいました。2つ目は「図工作品が壊されたこと」です。展示していた教師の作品で、一部は外に捨てられていました。

私たち教職員は、「このような行動をしてしまう子どもの心を救いたい!」と考えています。今解決しておかないと、社会に出てからの「不適応」が考えられるからです。「みんなで解決」するために集会を開きたいのですが、コロナ禍により「生徒指導担当の放送指導」と「担任の指導」を行いました。



担任の思い

<生徒指導担当の放送による話（一部抜粋）>

- ◆小坂小学校の子どもたち、一人一人に2つ話をします。しっかり聞いて、一緒に考えましょう。
- ◆1つ目は、トイレの落書きのことです。1学期から続いています。つめでひっかいたような跡で、そこにはとても悲しい言葉がかいてありました。書くのは簡単ですが、決して元通りにはなりません。誰も見ていないからいいと思ったのかもかもしれません。もし、自分の家に落書きをされたらどう思いますか？。地震の後に作り直した大切なみんなの校舎です。自分のこととして考えて欲しいです。
- ◆2つ目は、飾ってあった図工の作品についてです。（写真を黒板に貼って）作品が壊れてしまっていました。さらに、作品の一部が外に捨てられていました。それを見てとても悲しい気持ちになりました。学校には、みんなが作ったいろいろな作品があります。もし自分の作品が傷つけられていたら、いつの間にかなくなっていたらどう思いますか？。自分のこととして考えて欲しいです。
- ◆今から、「話を聞いてどう感じたか、自分はどうしていきたいか」を書いて欲しいと思います。モヤモヤしている人は先生たちに書いて教えてもらいたいです。きっと「話して良かった」と思えるはずですし、話してくれたら先生たちはとてもうれしいです。何かあったとき正直に話をしてくれれば、先生たちはみんなと一緒に「どうすればよかったか」を考えていきます。

この後、子どもたちは自分の思いをシートに書き、お互いの思いや担任の思いを交流しました。子どもたちが書いてくれたモヤモヤは、その後の教育相談（一人一人との面談）に活かしています。

学校は、社会に出るための「大切な練習の場」です。私たち教職員は、子どもたちの良さを認め、問題行動をチャンスと捉えながら、「将来の元気でたくましく生きていく礎を築きたい」と考えています。



親子に感謝！

「PTA作業」大変お世話になりました！

9月19日(日)、PTA三役・体育部・環境部による運動場作業が行われました(OBも協力いただきました！)。2日の運動会に向けて、美しい環境が整いました。また、作業後は三役と体育部が中心になり、運動会当日の打ち合わせが行われました。今年も「例年と違う運動会」のため、様々なシミュレーションがなされました。関係の皆様、本当にお世話になりました。

さて、運動会の運営方法については、24日時点の県リスクレベルで決定します。24日中にメール、28日までには文書でお知らせします。ご理解とご協力をお願いします。